

# 図書館における情報リテラシー（教育）を めぐるいくつかの論点

2024年8月9日（金）

野末 俊比古（青山学院大学）

[tnozue@ephs.aoyama.ac.jp](mailto:tnozue@ephs.aoyama.ac.jp)

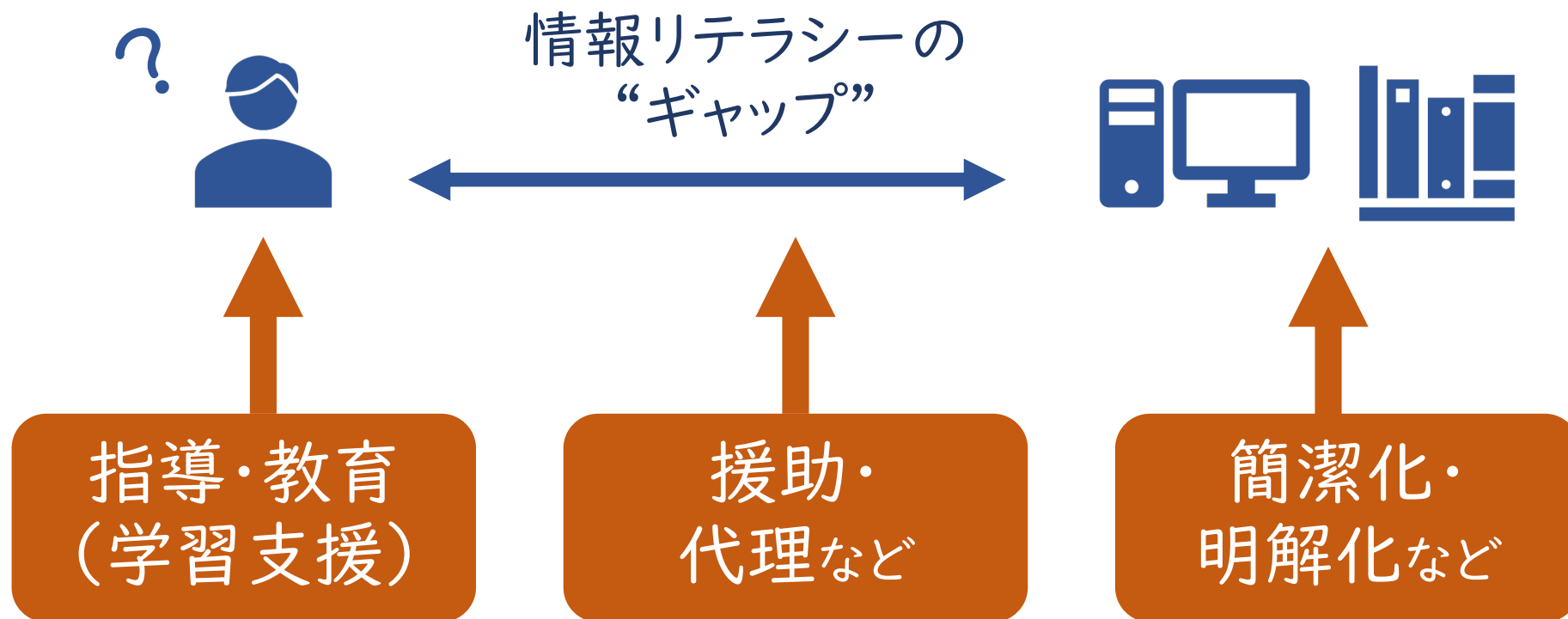
## 情報リテラシーをどうとらえるか

- ・ 情報社会（コミュニティ）で生活（機能）していくために必要な「情報の読み書き能力（基礎学力）」
- ・ 中身は“文脈”に依存
- ・ 「カラダ」「アタマ」「ココロ」の三つの側面にわたって

利用者とシステムとのあいだにある  
“ギャップ”をどう埋めるか／縮めるか

- ・ アプローチ(1)・・・利用者に対する指導・教育・学習支援(いわゆる情報リテラシー教育)など
- ・ アプローチ(2)・・・利用時の援助・代理など
- ・ アプローチ(3)・・・システム(図書館など)の簡潔化・容易化・明瞭化など

# “ギャップ”に対する三つのアプローチ



# 情報リテラシー教育のデザインにおける要素

- Whom・・・対象者（コミュニティ）
- Why・・・目的（文脈）
- What・・・目標・内容
- When/Where/Who・・・カリキュラム（プログラム）化
- How・・・サービス化

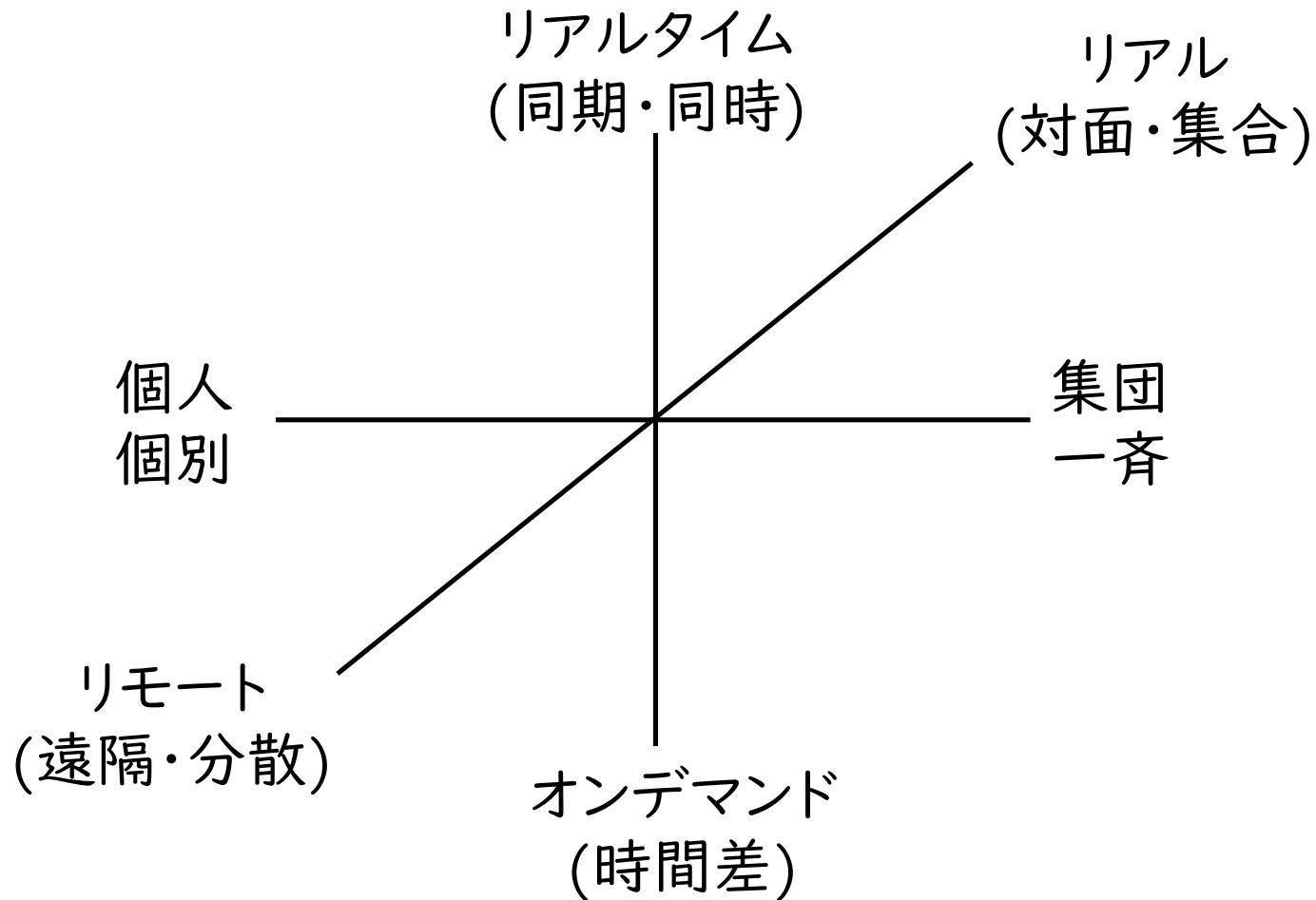
（野末（2009）「情報リテラシー教育における  
図書館員の役割」『短期大学図書館研究』no.28）

# ICTを活用したサービス化の視点(軸)

—いわゆるDXにおける最適化—

- ・ 視点(1)・・・「リアル(対面・集合)」か  
「リモート(遠隔・分散)」か
- ・ 視点(2)・・・「リアルタイム(同期・同時)」か  
「オンデマンド(非同期)」か
- ・ 視点(3)・・・「個人・個別」か「集団・一斉」か

# ICTの活用によるサービスの八つの象限

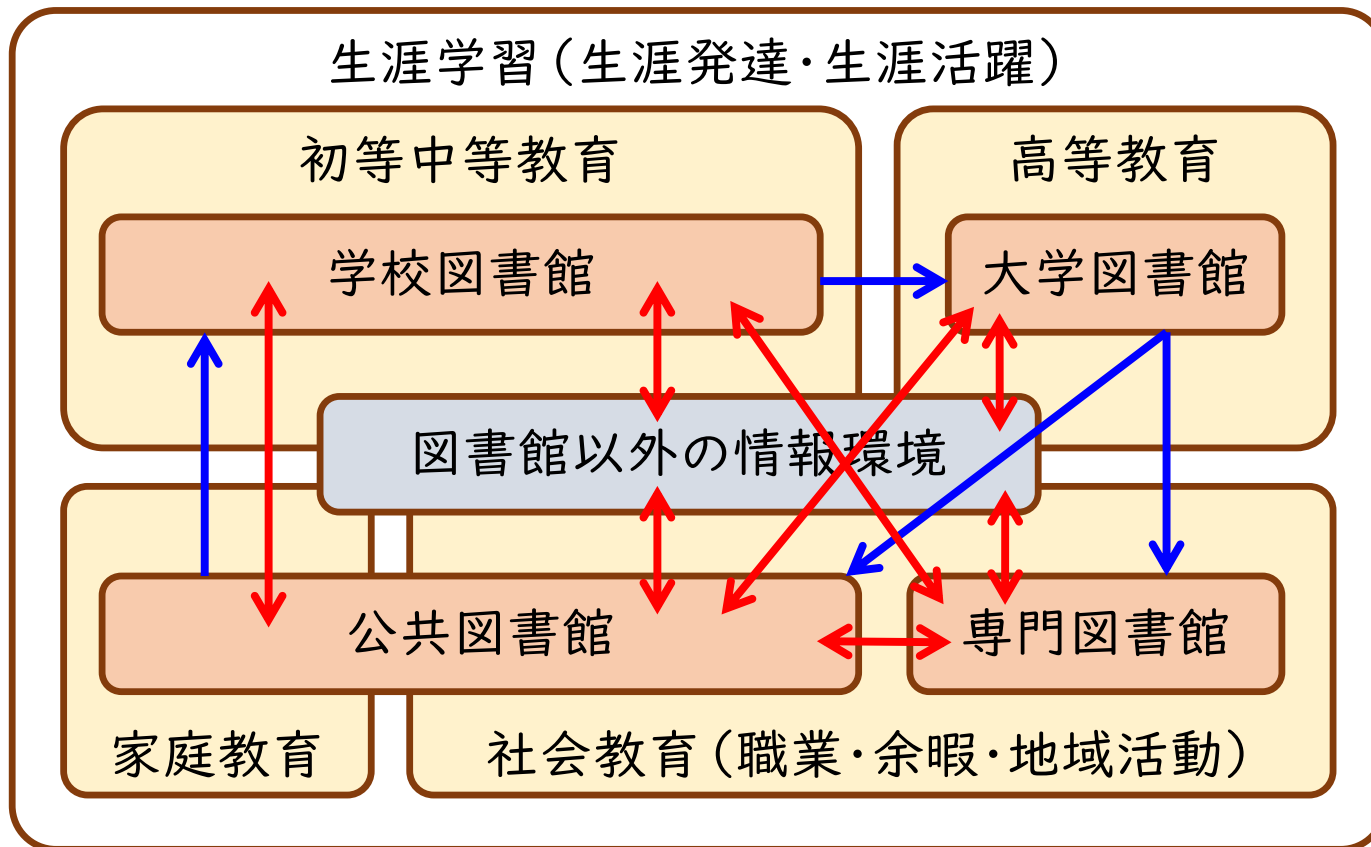


# “近未来”の図書館サービスに向けて —情報リテラシー（教育）を中心に—

- さまざまな視点による利用者セグメントの（再）設定
  - 読書・図書館利用の頻度（習慣・態度）
  - 情報リテラシーの領域・水準 など
- 情報（図書館）利用／利用者モデルの（再）構築
  - 情報利用＝問題解決＝学習プロセス
  - 館種を越えた情報リテラシー（教育）の枠組み など



# 情報リテラシー（教育）の枠組みづくりに向けて



（ライフコースの一例）

（JLA図書館利用教育委員会（2022）「情報リテラシー教育の新たな実践に向けて」第108回全国図書館大会第9分科会発表資料）

# “近未来”の図書館サービスに向けて (つづき)

- ・ 既存理念／業務の(再)検討
  - ・ ICT化を前提としたサービスの“棚卸し”
  - ・ 情報リテラシーに対する第2・3のアプローチ など
- ・ 図書館の複合化・融合化・遍在化と利用者協働の活性化
  - ・ 個人・組織などの“発見”と“共育”
  - ・ 社会の作り手としてのリテラシー など

# 学習コーディネーターとしての図書館員 —情報リテラシー（教育）を中心に—

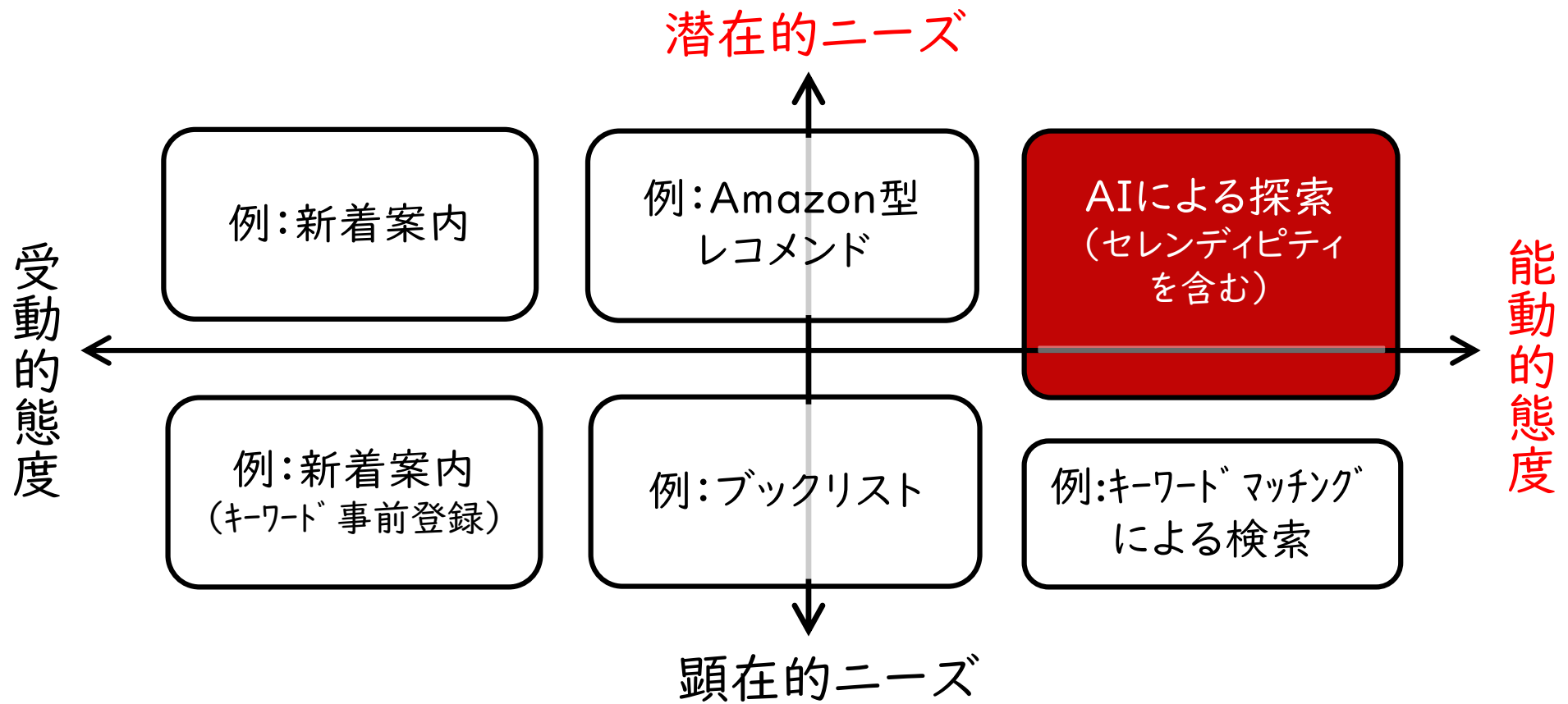
- 学習（情報利用・問題解決）プロセスに基づいたサービス計画・展開
- 資料・情報（教材）のカリキュラム化（キュレーション）
- 利用者との協働と学び合い（共育）
- AIを含むテクノロジーの活用

【参考】「蔵書探索 AI」の開発 —AI活用の一例として—

- ・ 青山学院大学革新技術と社会共創研究所  
「近未来の図書館と新しい学び」研究プロジェクトに  
おける富士通 Japan との共同研究
- ・ 「蔵書探索 AI」システムの開発と社会実装
- ・ 本年1月、横浜市立図書館に導入

(野末ほか(2023)「AIの活用による学習者に最適化した対話型文献探索システムの開発」『日本教育情報学会第39回年会論文集』など)

# 【参考】AIが意義を発揮する領域 —既存サービスとの関係—(仮説)



## 【参考】AIに対するニーズの把握

### —文献探索・選択の実態に関するアンケート調査—

- ・ 実施時期・・・2023年3月
- ・ 実施方法・・・インターネット
- ・ 調査対象・・・480人（「10代」から「60代以上」の各男女40人）
- ・ 調査項目・・・年齢・性別・職業、本の探し方・選び方  
困っていること、読書頻度、図書館利用頻度など

（野末ほか（2023）「私たちは本をどのように探したり選んだりしているか」『大学教育学会第45回大会発表要旨集録』）

# 【参考】グループごとに生じやすい課題

本をよく読む人が感じやすい課題

図書館をよく利用する人が感じやすい課題

キーワードが思いつかない

ある本の類書・関連本がうまく探せない

ジャンル・分野が…

候補となる本が多すぎる

興味をひく本が見つからない

自分に合った難易度の本が…

自分に合った分量の本が…

他人の評価を参考にしたい

受動的  
Push型

能動的  
Pull型

## 【参考】AI/DXの時代における情報リテラシー観

- 汎用性 → 利用者（文脈など）ごと
- 社会を担う → 社会をつくる
- 効率・効果 → 求めない自由
- 機能主義的な定義  
→ 状況論・関係論・全体論に基づく理解



# ありがとうございました

- 本発表は、2023年11月15日の国立国会図書館における講演（科学技術情報整備に係る有識者ヒアリング）の一部を再構成したものです
- 発表の内容は、所属する組織等ではなく、個人的な見解・認識に基づくものであり、試（私）論を含みます